

令和7年度補正予算 省エネ優先枠 要望調査様式のガイダンス

機械導入事業の基本の考え方

「何のためにその機械装置を導入するのか」

これを省エネ優先枠に当てはめると

「電力使用量や燃料使用量を減らすために〇〇〇をしたいので ●●の機械が必要。」となります。
何がしたいからその機械を導入するのか、というストーリーを整理してから資料作りに取り掛かりましょう。



ダレでもわかる！

- ・その農場でどのような省エネの取組をするのか、
- ・なぜ、その機械を入れると使用量が削減できるのかわかるように、情報を整理して記載してください。



1. 要望内容の訂正判断資料

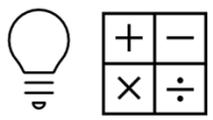
すべてExcelで提出

要望内容は2つの書類の情報から適正かどうか判断。

① この表に数値を当てはめて成果目標を正しく設定
成果目標事前確認表

省エネ優先枠の成果目標事前確認表											
クラスター協議会名		農林クラスター協議会		成果目標の確認単位		ℓ					
取組主体		農林太郎		導入予定省エネ機器		ヒートポンプ+バルククーラー					
省エネ区分	導入前				導入後(見込)				削減率 (①)	適否	
	期間	使用量①	単位	平均値	備考	期間	使用量②	単位			平均値
電力	R7年4月		kwh			R9年4月		kwh			
	R7年5月		kwh			R9年5月		kwh			
	R7年6月		kwh			R9年6月		kwh			
	R7年7月		kwh			R9年7月		kwh			
	R7年8月		kwh			R9年8月		kwh			
	R7年9月		kwh			R9年9月		kwh			
	R7年10月		kwh			R9年10月		kwh			
	R7年11月		kwh			R9年11月		kwh			
	R7年12月		kwh			R9年12月		kwh			
	R8年1月		kwh			R10年1月		kwh			
	R8年2月		kwh			R10年2月		kwh			
	R8年3月		kwh			R10年3月		kwh			
燃料	R7年4月		ℓ			R9年4月		ℓ			
	R7年5月		ℓ			R9年5月		ℓ			
	R7年6月		ℓ			R9年6月		ℓ			
	R7年7月		ℓ			R9年7月		ℓ			
	R7年8月		ℓ			R9年8月		ℓ			
	R7年9月		ℓ			R9年9月		ℓ			
	R7年10月	530	ℓ	786.7	R7.10~R8.3の 6カ月間の平均 値を現状値とす る。	R9年10月	745	ℓ	745	バルククーラー の容量 既存:12,000 ℓ 要望:12,000 ℓ	
	R7年11月	620	ℓ			R9年11月	745	ℓ			
	R7年12月	1000	ℓ			R9年12月	745	ℓ			
	R8年1月	910	ℓ			R10年1月	745	ℓ			
	R8年2月	910	ℓ			R10年2月	745	ℓ			
	R8年3月	750	ℓ			R10年3月	745	ℓ			
									5.30		○

② ここに記したことはすべて中央畜産会のシステムに登録される。
要望書作成用データ(統合版)



※成果目標事前確認表の備考欄もしくは、別紙(様式自由)にて、成果目標の算出方法(算出式含む)を記載いただき、提出してください。(算出式については、Excelで提出)

※畜産クラスター計画に、省エネ機器導入に係る協議会の取組内容を記載してください。

2. 成果目標事前確認表の留意点

(1) 成果目標事前確認表の記載方法

①協議会名と取組主体名を記載。

②成果目標の値の単位と導入予定の機械名を記載。

③導入前の現状値(期間、使用量、平均値)を記載。
※ 期間は事業実施年度(機械導入年度)の前年度にする。

④導入後の目標値(期間、使用量、平均値)を記載。
※ 期間は事業実施年度(機械導入年度)の翌年度にする。

③、④共通
※ 電力の場合は前年同月比とする。
※ 燃料の場合は、前年同時期の2~6ヶ月間の使用量の平均値とする。

⑤説明が必要な場合は備考欄に記載。
※ 電力使用量等の証明が農場単位の場合、現時点の説明予定の内容を記載。
※ バルククーラーの要望は、現在の容量と要望機の容量を記載。

⑥削減率を記載。
※ 成果目標が燃料の場合は使用量の平均値で削減率を算出すること。(削減率は、各月での削減率を算出したものを平均しないように)

⑦成果目標の設定に適している月に○印をつける。

省エネ優先枠の成果目標事前確認表												
① クラスター協議会名 農林クラスター協議会				② 成果目標の確認単位 ℓ								
取組主体 農林太郎				③ 導入予定省エネ機器 ヒートポンプ+バルククーラー								
省エネ区分	④ 導入前					⑤ 導入後(見込)					削減率 (①-②)/① ×100	適否
	期間	使用量①	単位	平均値	備考	期間	使用量②	単位	平均値	備考		
電力	R7年4月		kwh			R9年4月		kwh				
	R7年5月		kwh			R9年5月		kwh				
	R7年6月		kwh			R9年6月		kwh				
	R7年7月		kwh			R9年7月		kwh				
	R7年8月		kwh			R9年8月		kwh				
	R7年9月		kwh			R9年9月		kwh				
	R7年10月		kwh			R9年10月		kwh				
	R7年11月		kwh			R9年11月		kwh				
	R7年12月		kwh			R9年12月		kwh				
	R8年1月		kwh			R10年1月		kwh				
	R8年2月		kwh			R10年2月		kwh				
	R8年3月		kwh			R10年3月		kwh				
燃料	R7年4月		ℓ	786.7	R7.10~R8.3の 6カ月間の平均 値を現状値とする。	R9年4月	10~	ℓ	745	バルククーラー の容量 既存:12,000 ℓ 要望:12,000 ℓ	5.30	○
	R7年5月		ℓ			R9年5月		ℓ				
	R7年6月		ℓ			R9年6月		ℓ				
	R7年7月		ℓ			R9年7月		ℓ				
	R7年8月		ℓ			R9年8月		ℓ				
	R7年9月		ℓ			R9年9月		ℓ				
	R7年10月	530	ℓ	R9年10月	745	ℓ						
	R7年11月	620	ℓ	R9年11月	745	ℓ						
	R7年12月	1000	ℓ	R9年12月	745	ℓ						
	R8年1月	910	ℓ	R10年1月	745	ℓ						
	R8年2月	910	ℓ	R10年2月	745	ℓ						
	R8年3月	750	ℓ	R10年3月	745	ℓ						

(注1) 成果目標の確認は、原則として、導入した機械装置を設置する畜舎単位とし、電力使用量等の証明が農場単位の場合には、本事業で導入した機械装置以外に省エネ機器がない等、成果目標の達成が本事業によるものである旨の説明資料を成果報告時に提出が必要になるため、備考欄に現時点の説明予定の内容を記載のこと。

(注2) 燃料費については、2ヶ月~6ヶ月間の平均値をもって確認。

(注3) キュービクル(高圧受変電装置)は電力の契約単価を抑制(高圧受電契約)する機械装置なので電気料金で確認。

(2) 成果目標事前確認表で間違いが多かった事例

③、④

・導入前の期間設定が事業実施年度の前年度になっていない。

・導入後の期間設定が事業実施年度の翌年度になっていない。

→導入前、導入後の期間設定は目標設定期間に合わせて適宜変更する。

R8年度に導入する場合は、導入前はR7年度、導入後はR9年度にする。

⑤

・農場単位で目標設定をしている場合、そのことが記載されていない。(基本は畜舎単位)

→農場単位で目標設定をしていることを記載する。削減効果が導入機械によるものだという根拠を用意し、確認表の備考欄にも記載する。

※バルククーラーを要望する場合は、現有機の合計容量が下回らないようにすること。

※実施要領において、「バルククーラーについては、ヒートポンプと一体的導入する場合に限るが、バルククーラー単独で、成果目標を達成できる場合は、この限りではない」としており、バルククーラーもしくは、ヒートポンプを単独で導入する場合は、削減の根拠を備考欄に記載すること。

3. 要望書作成用データ(統合版データ)の留意点

※要望書作成用データは最終的には、配分→申請→成果報告まで活用するデータとなるので、間違いがないかしっかり確認すること。

※式やマクロが入っている部分は勝手に修正しないこと。

4. 成果目標の算出根拠(算出方法・算出式)

※成果目標の算出方法(算出式含む)については、成果目標事前確認表の備考欄に記載するか、別途、算出方法(算出式)を記載したものを提出し、目標の妥当性がわかるようにすること。

※成果目標事前確認表及び、算出根拠のうち算出式を記載したものは、Excelで提出すること。

(計算式が間違っている場合があるので確認します。照会時には、照会内容によっては直接コメントを記載して照会します。)

※機械メーカーから入手した算出式やシミュレーションを算出根拠とすることが可能。

(算出根拠や機械メーカーからの資料を添付する場合、成果目標事前確認表の備考欄に「別添資料あり」と記載)

機械メーカーからのシミュレーション(イメージ)

要望機械の機種名や
取組主体の飼養規模、湯使用量
などを入力



機械を導入した場合の
燃料使用量、削減率を自動計算
で算出(目標値)

〇〇機械装置(要望機械名)の導入効果

〇〇会社(会社名)

1.選定条件

(1)	飼養頭数	●●●	頭
(2)	選定機種	▲▲▲▲▲▲▲	
	原乳冷量(仕様値)	3000	L/日
	集荷仕様	毎日一回	
(3)	湯使用量	44	L/回
(4)	周囲温度	20	°C
(5)	バルククーラー冷却設定温度	4	°C
(6)	冷却乳量	1170	L/回
	原乳冷却量	2340	L/日
(7)	給水温度	18	°C
(8)	〇〇機械装置温度	18	°C
(9)	給湯温度	80	°C

2.選定結果

	既存ボイラー	要望機械	単位
(1)	給水温度	18	18 °C
(2)	〇〇機械装置温度	—	48 °C
	〇〇機械装置運転時間	—	2 時間/回
(3)	給湯温度	80	80 °C
(4)	年間灯油量	2,158	1,133 L/年
	灯油の削減率		47.5 %